

## 第2回基幹教育シンポジウム アンケートについて

第2回基幹教育シンポジウム 平成28年2月18日(木)(会場:西新プラザ)

参加者:151人 うちアンケート提出者89人

### (1) 報告や講演等の参考度

	所属	合計	参考度(全体)				
			5	4	3	2	1
1	九州大学	25	14	9	2	0	0
2	その他の大学・短大	43	14	26	3	0	0
3	高等学校	6	4	2	0	0	0
4	他の教育機関	8	5	1	2	0	0
5	民間企業	2	1	1	0	0	0
6	その他	2	0	2	0	0	0
7	不明	3	1	2	0	0	0
	合計	89	39	43	7	0	0

### 九州大学

#### (2) シンポジウムの感想

- 非応用的で科目におけるアクティブラーニングについて激論してほしかった。
- 「研究室・ゼミではだめなのか?」の問い。アクティブラナーの目指すもの
- 大学としての目指すもの。
- 学生だけでなく教員の意欲を向上、維持するために必要なことは何か?
- 横山氏のような外部の方のコメントがもっと聞きたい。
- あらためて大学の存在意義
- 「学習科学」
- 専門課程におけるPBLの実践とその際の課題について。特に商品の開発や企業との連携につながるものを組み込んでいく試みについて
- 4年間のカリキュラムにおけるA.LやPBLの配分や位置づけ
- A.L手法の目的別優劣
- 学習の共同性、社会性の視点はとても重要だとは思いますが、一方で一人で自身に向き合う形での学習も同様に重要
- 言語教育において基幹教育の試みについても勉強したかった。
- 具体的方策として現行制度(基幹教育)の問題点を改善出来ることが今後の取り組み
- 新入生にどれくらい伝わっているのか?

### (3) 九州大学基幹教育について

- 学生を見ていて全学教育時代の初年次必修科目よりも基幹教育の「基幹教育セミナー」、「課題協学」へのモチベーションが高いのは感じる。文理融合のクラス編成になること自体で以前のクラス単位のものよりも「場を共有する」という経験が増えており出席の継続に繋がっている。
- 学生支援組織連携をもっと進めることでアクティブ・ラーニングの違った切り口が見えてくるのではないか
- 総合科学の中でフロンティア科目とオープン科目を分ける必要性を教えてほしい
- アクティブ・ラーニングの積極的な取り組みは評価している、今後より実践的に発展させて行く時に総合大学ならではの問題点と強みが出てくると予想されるため、長所を生かしたやり方を試行する必要がある。
- 取り組みの現場を見学したい。
- 抽象的な論に終わってしまったように思う。アクティブ・ラーナーが大学で育成されれば素晴らしい。大学では可能なのか？大学でやる必要はあるのか？というのは要らぬ論だと思う。問題はそれをどのように実現できるかにあり、そこをもっと聞きたかった。
- 人的資源の確保は難しい

### その他大学・短大

#### (2) シンポジウムの感想

- 「教える」ことから「学ぶ」ことへの転換の重要性を示す根拠資料を知りたい。
- 従来の授業でよいと考える保守的な教員にどう説得すればよいか。
- アクティブ・ラーニングを実施したことによるデメリットやそれによって効果があったと見られる学生のその後について知りたい。
- アクティブラーナー育成関係機関・部署（図書館、教学担当事務）の役割や取組
- 学生の研究発表や成果発表等も盛り込んでほしい。
- 教員・職員の協働・改善が常に行える土台、仕組みづくりの過程などについて知りたい。
- 21CP型スキルについて詳細を知りたい。
- 教員の自治が強い中で、基幹教育を大学に導入し、調整する方法について知りたい。
- 基幹教育について運営方法、成り立ちなど（もう少し詳しく）
- 他の科目の工夫（理・文ディシプリン科目）はどのように各教員にうながされていったのか（自発的なものか、何らかの大学の方針等が示されたのか）。
- 文系教員の考え方や意見について知りたい。（文系教員の方が登壇されなかったが偶然でしょうか）
- 基幹教育セミナーの内容について（もっと具体的に）取組の事例について知りたい。
- 各大学では職員はどのような形でアクティブラーニングと関わっているのか。

- すでに実行している事例が多く、新鮮味に欠けた。

《古屋先生のお話について》

- 2コマ連続することの理由・効果、そしてグループの分け方について知りたい。

《美馬先生のお話について》

- やるべきことがしっかりまとめられ、説得力があったので、関係機関外でも聞きやすく、興味を引くものだったと思います。実際に自分たちが取り組むためにはどうしていくか、つなげられたらと思います。
- 「制度のデザイン」について、具体的デザインの方法やプロセスの実例について知りたい。
- 教員学生の異質な組み合わせによるグループ学習は、3年生であることに意味があるのか。東北大学や九州大学のような初年次でも意味はあるのか。(18年つちかってきたものは、1～2年ではどうにもならないのか)
- 授業改善ではなく、学修改善という視点への変更にとって、重要なことは何か。
- 教員は各自の単独授業へ学んだことを転移できているのか？(本学では二極化)そういう仕掛けの案はあるのか。
- アクティブラーナーを育成することのできる大学教員資格とは。

《横山氏のお話について》

- もう少し大波をたててほしかった。

(3) 九州大学基幹教育について

- せっかく文系・理系でmixしているのに学生活動があまりmixされていない気がする。
- 九州地区の大学の先駆者的存在として範を示し続けていただきたい。
- 全国の大学にもっと周知してほしい。
- 日本を代表する大学としていい学生・学者を育ててほしい。(現状は必ずしもそうっていない)
- 大学の中から、小・中・高に出かけてはどうでしょうか。(イメージと現在の実情がずれているのでは)
- 今後、どうなったか(学生がどのように変化したのかなど)の結果を知りたい。
- 同じような問題点を抱えていると知り、ある意味、安心しました。
- 大学で学ぼうと考えていることなどをテーマにしていることに、現在の学部1年生のスタートラインはそこからなのだという印象を受けました。
- とても丁寧に組織化されていて感銘を受けました。

## 高等学校

### (2) シンポジウムの感想

- アクティブ・ラーナーとは共同学習ありきなのかと考えた。アクティブに学ぶ続けることと協力して学習することについてもっと考えていきたい。
- 今後大学での講座がどのような形になっていくのか、どのような学生を社会に送り出そうとしているのかをもっと知りたい。
- 学習環境デザイン
- 様々な「AL」の取り組みを知りたい。具体例を含め直面している現場に有効な適したものを生み出せると思う
- 「PBL」「TBL」について
- 「評価法」「リフレット法」について知りたい
- 実践内容、高大接続の取り組み

### (3) 九州大学基幹教育について

- 高大接続については互いの情報交換を行いながら進め学生の将来の為のシステムを構築することが必要なのか
- 美馬先生がおっしゃたように様々な効果をシェアしてほしい。
- 高校でも今年度からアクティブ・ラーニングという言葉が流行し始めましたが大学教育はとても進んでいるのだということに感嘆している。今後、大学での取り組みの情報を広く集めながら高校教育でも実践していきたい。
- 美馬先生の言葉「AL」という言葉が与えられた事により授業をしやすくなった人がいる。まさにその通りで、ただのうるさい授業ではないという自信がついた。アクティブ・ラーニングにより数学に関心を持ち、みんなで取り組み深く知りたいという生徒が増え人前で話のできる生徒が出てきた。
- 送り出した生徒がどんな教育を受けているのかという思いから参加した。教員という立場でアクティブ・ラーニングへどう挑んでいるのか非常に興味のあるところだった。九大の先生の実践報告を聞いて日々の教育の中で同じ気持ちを持っていることがわかりありがたかった。
- ゼミや研究室ではだめだったのか？とても刺激的な内容で九州大学の取り組みが理解できもっと話を聞きたかった。

## その他教育機関

### (2) シンポジウムの感想

- アクティブラーニングをグループ学習とあらくとらえるならば、小学校におけるグループ学習は、場合によってはお茶を濁したものになりがちです。という前提で、大学の先生方の講義スタイルをかえるトレーニング研修などについて知りたい。それともこの点についてはすでにプラトーだという考えなのでしょうか。
- 横山氏の問題提示が端的に述べられていて考えさせられる事が多く含まれていると感じた。アクティブ・ラーニングがなぜ求められるのか（グローバル化）が論じられていなかったのもその中で九州はどんな人材を育てるのか知りたかった。
- 高大接続改革の視点から、アクティブ・ラーナーを育成するために大学入学者選抜の改革をどのように進めようとしているのかについてもっと知りたい。また、アクティブ・ラーナーの育成の為にAP, CP, DPをどう策定しているのかを知りたい。
- 高校=わかっていること、大学=わからないこと、を学ぶという分け方は単純に割り切れるものではなく正解のない問いになんとか解決しようという姿勢は高校大学区別ないと思う。
- H30.4月全県立高校でのAL準備完了という目標でやっています。(H27.4月から、高校ではAL狂想曲と言われる位かまびすしいです。)
- 高大接続の行く末と大学入試の改革
- グループで課題を乗り越えることが大切だと実感しました。
- 何のためのアクティブ・ラーニングか？高校までは21世紀型スキルの習得、大学をより良い大学教育、研究の為にという理解をしたがこれでよいのか。
- 小中高大をそれぞれの発達段階でアクティブ・ラーナーを育成し続ける為には教員がアクティブ・ラーナーであることが前提であり、ALの流れは止められないものだと思う。

### (3) 九州大学基幹教育について

- 学部学科を越えてとありましたが、今日は理系学部の説明ばかりで、九大の文系のあり方についてよくわかりませんでした。
- 九大においては最小限で行ってほしいなあと思いました
- 全体の総和としての学び？意欲は上がると思います。
- 様々な評価の数値が高いです。その中で、本来高いモチベーションを持って入った学生についてはマイナスになりかねません。九大はそのような学生にとって、最ものびることになる場になってほしいです。
- 職員のモチベーションも気になります。
- 本日の話題であった九大ほどの学力ではない所においてはかなり有効だと思います。
- 九大の先生方もまだまだ入口の手前でウロウロしていらっしゃるのだなあというのが

今日の実感です。組織が大きい分、共通語をきちんと押さえることが必要なのでは。

- ALのコツ、基礎基本をきっちり押さえるという共通認識が必要では。
- もちろんバリエーションはありますが、その基底はある程度そろえるべきじゃないですかね。

## **民間企業**

### (2) シンポジウムの感想

- ALの現状

### (3) 九州大学基幹教育について

特になし

## **その他**

### (2) シンポジウムの感想

- パネルディスカッションでは先生方それぞれの考え方や方針はとても学びにつながった。

### (3) 九州大学基幹教育について

- 自分のことも他の人も他人事ではなく互いに考え会えるところが魅力的でよかった。